



B型肝炎予防接種説明書



B型肝炎とは、B型肝炎ウイルス（HBV）の感染によって起こる肝臓の病気です。感染経路には、血液感染、母子感染、性行為感染などがあります。

B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうちの一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

ワクチンを接種することで、体の中にウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防し、まわりの人への感染も防ぐことができます。

1 接種方法について

確実に免疫をつけるために、特別な接種間隔が定められています。接種前に、必ず確認しましょう！

・接種方法は皮下注射です。

対象年齢・接種間隔		接種回数
予防接種法	1歳未満の間に、1回目の接種から27日以上の間隔をあけて2回目、1回目の接種から139日以上の間隔をあけて3回目の接種を受ける。 (標準的接種期間：生後2か月以上生後9か月未満)	3回
〔注意〕母子感染予防のために、出生時に抗HBs人免疫グロブリンと併用してB型肝炎のワクチン接種を受ける場合（3回接種）は、健康保険が適用されるため、定期予防接種（全額公費負担）の対象にはなりません。有料（自己負担）となります。		

2 接種後の経過と副反応

接種後の過ごし方について詳しくは裏面をご覧ください。主な副反応としては、倦怠感、頭痛、発熱、発疹、関節痛、筋肉痛、吐き気、下痢、食欲不振があります。また、接種部位においては、痛み、はれ、発赤、しこり、かゆみなどがみられることがあります。

まれに重い副反応として、ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難など）、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、脊髄炎、視神経炎、ギラン・バレー症候群、末梢神経障害が認められています。

3 予防接種健康被害救済制度について

万が一、定期予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する請求について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当、年金等の給付を受けることができます。

- 前回の**B型肝炎予防接種からの間隔**、他の予防接種からの間隔は、両方とも大丈夫かな？
- 下痢はしていないかな？
- 熱は？
- ひどい湿疹はないかな？
- せきや鼻みずは？
- いつもと違うところはないかな？
- 機嫌は良いかな？

◎予防接種に関するお問い合わせは・・・



裏面はお読みになりましたか？
不明な点は接種前に医師に
ご確認、ご相談ください。



予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。

赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予診票を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

★ 予防接種のきほん ★

1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

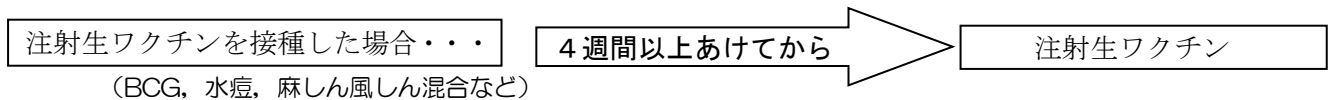
予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) ロタウイルス接種の場合、腸重積症にかかったことがある。
- 6) ロタウイルス接種の場合、腸重積症の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害があり、治療していない。
- 7) ロタウイルス接種の場合、重症複合型免疫不全（SCID）を有する
- 8) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 9) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 10) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
- 11) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
- 12) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
- 13) その他、医師の判断で不適当と判断された場合

2. 予防接種の間隔について

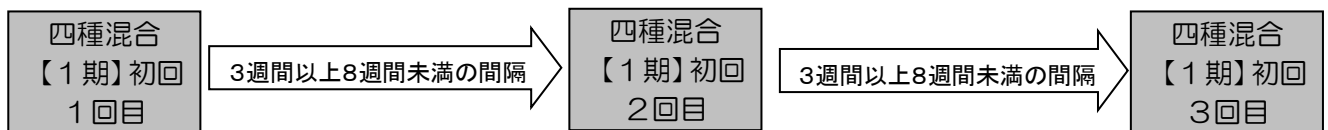
予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

1) 異なる種類のワクチンを接種する場合



2) 同じワクチンを複数回接種する場合

<例>四種混合ワクチン

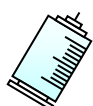


※ B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel.626-1114）までご連絡ください。



本日受ける予防接種の特徴や副反応などは、表面に記載されています。接種を受ける前に必ずお読みください。

